

一歩



少年会サンデースクール

本年、伝道庁春季大祭から、祭典中の少年会サンデースクールを再開しています。どうぞご利用ください。また、少年会ではスタッフとしてお手伝いいただける方を募集しています。おられましたら委員にご相談ください。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.905



tenrikyo.com

APRIL
2023



つらつらせんがく 熟々浅学



— お賽銭とお守り —

今月 18 日におちばで教祖誕生祭が執り行われ、教祖は 225 回目のお誕生日をお迎えになられます。アメリカ・カナダからもお祝いを申し上げていただきたいと存じます。

今月アメリカ婦人会が、来年のアメリカ婦人会創立 70 周年の記念として団参を実施し、大勢の方々がおちばがえりしてくださっています。有難いことです。

地区によって開催時期が違いますが、今月と来月、各地にて「ひのきしんデー」が開催されます。お住まいの近くで行われる「ひのきしんデー」に参加していただき、親神様の御守護に感謝の心を表していただきたいと思います。もし近くに会場がなければ、それぞれで日を決めて「ひのきしんデー」を実施していただければと思います。

今年 6 月 23 日から 25 日まで、カリフォルニア州パームスプリングス市で、天理教フェイスカンファレンス、SoulFire を開催します。英語圏の教友が一堂に会して、教理を学んだり社会問題を話し合ったりするイベントです。既に申込受付が始まっていますが、多くの方に参加していただきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

来年 6 月 30 日、アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭を迎えます。一人でも多くの方にご参拝いただきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、これから書くことは、ネットに掲載されていたある本からの抜粋文章を読んで思ったことですので、先ずはその点をご承知おきください。つまり、不十分な情報で書きますので、誤解していることがあるかもしれないということです。

その本ですが「神主はつらいよーとある小さな神社のあまから業務日誌」という長いタイトルが付いています。

タイトルから分かるように神社の神主さん

が日々の出来事について書いています。

この著者は 50 歳の時にサラリーマンから神主に転職され、現在はある神社の宮司をしつつ、他に 13 カ所の神社を兼務しているとのこと。つまり 14 カ所の神社の責任者の宮司であるとのこと。天理教で言えば、14 カ所の教会長をつとめているということになるのでしょうか。

この方が書かれた本の文章がネットに抜粋されていて、それを読んで驚いたことがあります。

先ず「お賽銭」についてです。

天理教では「御供」ということになるでしょうか。もう少し具体的に言えば「日々の理」という「御供」ということになるでしょうか。

抜粋の文章に賽銭泥棒に関して書いてある中に「お賽銭」とはなんぞや、ということが次のように書いてあります。

財布の中を覗いてみてください。1 円硬貨、100 円硬貨、500 円硬貨、1000 円札、1 万円札……。さまざまなお金が入っていることでしょう。これらのお金の元所有者の中には、それこそ賽銭泥棒など、悪事を働いて、そのお金を手に入れた人もいます。そうです。あなたの財布の中には“穢れたお金”が、紛れこんでいるものなのです。

そこで私たちは、賽銭箱を前にして、取り出したお金の“穢れ”の思いをこめて、それを奉納しているのです。「え？ そんな思いをこめたことはないけど……」という人もいるかもしれませんが、大丈夫です。賽銭箱に入れることで、自然に、そのお金には穢れがこめられています。

こうして“穢れたお金”を神様に捧げることで、あなたが所有する残りのお金はきれいになります。

つまり、です。

この賽銭泥棒は“穢れたお金”をフトコロ

に入れようとしたことになります。1人だけの“穢れたお金”ではありません。何十人何百人もの人々の“穢れたお金”を自分のモノにしようとしたのです。

私は、お賽銭とは“穢れたお金”という定義(?)に少々驚きました。

“穢れたお金”が財布に紛れているということもあるかもしれませんが、そのお金も「お賽銭」として入れる人々の心のことは考えておられないような感じがしました。

天理教での「御供」は、日々生かされている御恩に感謝して金銭の「御供」をさせていただいていると皆さんも理解しておられると思います。また、人のたすかりを願って「御供」することもあるでしょう。“穢れたお金”をという思いを持って「御供」をしておられる方はおられないと思うのです。

さて、次に「お守り」についてです。メルカリというサイトにある神社のお守りが出品されていて、そのことに関して記述されている中に、次の一節があります。

お守りというものは、文字どおり、持っている人を守ってくれる存在です。1年間身につけていることで、身に降りかかる災い(穢れ)を吸い取ってくれるのです。

つまり、メルカリに出品されていたお守りは、出品者の1年分の穢れがたっぷり染み込んだものなのです。

そんなお守りを手に入れたところで、御利益は一切ありません。それどころか、前の持ち主の穢れを背負うことになります。知らないうちに、出品者の穢れがスルスルリと落札者の体内に入っていくのです。

2万円で落札した人は、出品者に「ありがとうございました」と書いてありました。それを見て、背筋が凍りました。穢れをもらっているのに、ありがとうございます、なのですから……。

「お守りというものは、文字どおり、持っている人を守ってくれる存在です」とありますが、この部分は天理教の「証拠守り」と同じであると思います。但し、私たちは教祖にお守りいただいているのであって、その点は違います。

神社のお守りの“効力”とでもいうのは1年だけのようで、年ごとに新しく手に入れる必要があるようです。この点は天理教とは違

います。天理教では一生のお守りであり、「証拠守り」を頂戴した人が出直されても、遺骸と一緒に燃やしたり埋葬したりするのではなく、末代の家の宝として祀るとお聞かせいただけますので、1年ごとに新たに「証拠守り」を頂戴することはありません。一生に1度だけしか頂戴できないのです。

神社の「お守り」で驚いた点は、「身に降りかかる災い(穢れ)を吸い取ってくれる」という考え方です。ですので、他人の「お守り」を手に入れても「御利益は一切ありません。それどころか、前の持ち主の穢れを背負うことになります」とのこと。また、『未使用であれば、いいのでは?』と、思う人もいでしょう。いえ、ダメです。未使用であれ、その人が神社で購入した時点で、そのお守りは、その人の穢れを吸い取りはじめるのです」とも書いてあります。

天理教では、おちばに帰って来た証拠として頂戴するので「証拠守り」とお聞かせいただき、頂戴した本人が身に付けることによって御守護を頂戴します。

他の人の「証拠守り」を他人が引き継いでも御守護くださらないように思われますが、「証拠守り」を頂戴した人が出直されても末代の家の宝として祀るとお聞かせいただくことを鑑みた時、末代家を守ってくださる「証拠守り」と考えられますから、“穢れ”を吸い取っているという考えはないと思うのです。

ご存知のように、教祖がお召しなられた赤衣から「証拠守り」が作られているのですから、“穢れ”を吸い取るという考えはありません。どこまでも御存命の教祖が私たちをお守りくださっているという考え方であると思うのです。

この抜粋の文章を読んで、神社という所では“穢れ”を取り除く所なのかという印象を持ちましたし、本当にそうなのだろうか、と、少々疑問に思っています。

もう少し神社のことを調べる必要があるかもしれません。

深谷 洋

※2023年3月号「熟々浅学」に「全教一斉巡教」とありますのは「全教会一斉巡教」の間違いです。お詫びして訂正いたします。

立教 186 年 3 月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところから、この世人間をお造りください、約束の年限の到来と共に、教祖をやしろに貰い受けられて、この世の表にお現れになり、だめの御教えをお啓きになられました。爾来、御教えは世界に伸び広がり、アメリカ、カナダの地にても、教祖のひながたを頼りに、にをいがけ、おたすけに勤しむ者をお与えいただいております御慈愛の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、御恩報じを念じて、遅々とした歩みの中にも、日々、たすけの御用を勇んでつとめさせていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の三月の月次祭を執り行う芽出度い日柄に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃の御高恩に拝謝して、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、本年の春季霊祭を無事につとめ終えさせていただくことができました、誠に有難うございました。今後も霊様方の御功績を礎にして、更なる道の伸展に努めたいと存じます。

来月には、アメリカ婦人会が、来年の創立七十周年を記念して団参を計画しておりますが、滞りなく終えられますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭の年祭活動が始まりました時旬に、世界にお見せくださる様々な姿に親神様の思召を探求し、教祖のひながたを頼りに、たすけの御用に励み、世界一れつを治める御教えを広め、また、次代を担う人々に御教えを伝え、更には、管内一同が一手一つになって、当伝道庁創立九十周年記念祭に向けて、成人の道を邁進する所存でございます。何卒、親神様には、私共の誠真実の心をお受け取りくださいます、一日でも早く、世界中の人々が互いにたすけ合っ
て暮らす陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

3 月月次祭神殿講話

セントラルプレスノ教会前会長
雪本 利清

本日私たちは、一手一つとなって世界平和を願い、日々親神様から受ける御守護への感謝を示すためにここに集まっています。

今月の講話を勤めさせていただきお役をいただきましたので、しばらくの間お付き合い下さい。

2014年6月、ここロサンゼルスでアメリカ伝道庁の80周年記念祭が勤められました。その時の記念祭のテーマは、「Nurture the Future (未来を育てる)」でした。アメリカとカナダの道の将来を担う若い方々を育てることの重要性が増す中、それに集中するべきであるとの意図でこのように決められました。時が経つのは早いもので、来年2024年の6月には、伝道庁の90周年を祝う年となります。少し考えてみて下さい。「Nurture the Future (未来を育てる)」というテーマについて、進展はありましたでしょうか？

我々は今、90周年を来年の6月に迎える真っ只中にいます。この度のテーマ及びスローガンは、「信仰の喜びを分かち合う」、そして「家族、友人、コミュニティの人たちと信仰の喜びを分かち合おう！」です。深谷庁長先生は、昨年10月の講話で、「今回のスローガンと成人目標には『コミュニティ』の言葉が多く出てまいります。『コミュニティ』の言葉を使っている理由は、今まで内向きであった私たちの活動を外向きにして行こう、教外との繋がりを増やして行こうということです。」とおっしゃいました。また、「もちろん、教内に向けての活動を疎かにするという意味ではありません。」ともおっしゃいました。

信仰の喜びを天理教以外のコミュニティで分かち合うこと、また、家族で分かち合うことはどちらも大切なことです。内と外でのに在いがけの両方をバランス良くすることはここアメリカとカナダにおける我々の道にとって、大切なことです。「家族」というものが90周年のスローガンの一部ですので、家族と信仰の喜びを分かち合うことについての私の考えを述べたいと思



います。

ですがその前に、私の家族の歴史について少しお話ししたいと思います。私の祖父は別の宗教を信仰して育ったのですが、自身の姉を通して天理教の信仰を始めました。祖父は、6人の子供に恵まれた幸せな結婚生活を送っており、服屋さんの経営で繁盛していました。しかし、祖父が39歳のとき、一番上の兄が突然出直しました。その死は祖父に大きな影響を与え、兄が遺した5人の子供が父親なしで育たなければならないと考えると、祖父は悲しくなりました。

ちょうどその頃、天理教の教会にお嫁に行っていた祖父の姉が、教会の借金がかさむ中で経済的に困難な状況に陥っていました。祖父は、非常なる寛大さを以て姉の教会を経済的に援助し、それがきっかけで祖父の天理教信仰への道が繋がりました。若い年齢で、特に男系の家族が出直すという雪本家のいんねんを切り替えるため、また、姉の手助けをしたいという強い思いを持ってのことでした。祖父は、40歳にして貯蓄や所持品の全てを姉の教会に御供することを決断し、自身の家族をも教会に移らせました。こうして祖父は、一番下の子供を妊娠していた奥さんと、上の子供5人と一緒に教会に移り住みました。

私の父は、5番目の子供で、天理中学校に通いました。卒業時には奈良市の医療学校に合格していました。両親が人を助けるために天理教の信者となったので、医者として協力できると思ったからでした。医療学校の2年目に、祖父が父親に、「医者になりたいのは知っているが

天理教の布教師になってほしい。医者は一代のことだけど、道が続けることは永遠に繋がる。医者になったら他の人を助けられるのはわかっているが、お道を信仰することで、悪いいんねんを良いいんねんに切り替えることができる。これは永久的に続くことだ。」と言いました。これが、祖父が自分の意図を伝えるにあたり、父に語った言葉でした。

父と祖父との間の会話は、祖父の信仰の強さ、そしてお道を信じる気持ちの強さを表していました。祖父は、お道を信仰することで、家族の悪いいんねんが良くなることを知っていました。こうした言動には、祖父が自分の子供たちに持つ親心がはっきりと現れています。私の父は、難しいジレンマに悩みましたが、最終的には医療学校を辞めて布教師になる決断をしました。父はその後布教活動のために戦後の広島に行きました。後にはそこで教会を設立しました。

諭達第四号に

「人救けたら我が身救かる」と、ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとあります。

1961年の教祖80年祭の旬の際に、父は布教師としてアメリカに来ました。アメリカでの暮らしが落ち着いた頃、私を含む残りの家族が1963年に移住しました。私は当時8歳でした。父は祖父同様、非常に信仰熱心でしたが、アメリカでの言語や文化の違いのために、自分の子供を含む他の人に教えることに困難が生じるであろうと心づもりにしていました。父は、自分の家族のためだけでなく、アメリカにいる他の家族の人たちにとってもこの道が続いてほしいと思っていました。

大きくなる中の日々の暮らしの中で、教えや親神様という観念を理解するのが難しいこともありました。当時、教えを勉強したいと思った時、参考にできるものはそんなに多くありませんでした。教えのことは、両親の行動を見て学びました。ひのきしんのために、年寄りの家に連れて行ってきて、庭の掃除をしたり、家の掃除をしたり、喜んでいただくために日本語の歌を歌うときもありました。人を助けることで喜んでいただくことを学びました。

天理教の教えを更によく理解するため、私を含む兄弟の皆がお道の勉強のためにおちばへ行かされました。天理高校に3年間通った兄弟もあれば、親里セミナーの先駆けである、学生の

ための修養科に通った者もあり、大学を卒業してから海外部で勤めた兄弟もいます。弟の善は、アメリカ修養会を16、17、18歳の年で夏の時期に3年連続受講しました。おちばでの修養科が3ヶ月なので、私の父は善が教を学べるよう、アメリカ修養会を3回受講してほしいと思ったのです。当時、講師の一人が笑って、「善が毎年いるので、授業中に同じ話ができない」と言っていました。難しい時もありましたが、今では、私たちがよりよい人生を送れるよう、両親がお道の信仰の道中を導いてくれたのだという親心を感じます。私たちの将来のためにそうしてくれたのです。

また、教会で育つ中で、両親は日々のおつとめと月次祭を勤めることに関してとても厳しかったです。父は常に、親神様が毎日食べ物と健康な体をお与え下さっていると話していました。私たち兄弟は、おつとめをすることはとても大事なことで、なぜ両親が私たちにおつとめを教える努力をすることがわかるようになりました。私が、今教会長であるスティーブンを含む自分の子供たちに、おつとめについて厳しかったのはこのためであり、それはその次の代である孫にも続いています。月次祭の前日に家族が集まることはとても有難いことで、いつも一緒に素晴らしい食事の時間を楽しみます。毎月が家族との再会の時間です。

信仰を自分の子供に伝えるのは、おたすけのようなものです。親の信仰、行動、言葉を見て、日常でどのように信仰のある暮らしをするかの元にします。親が完璧ではなくとも、子供は親を尊敬するものです。その反面、人生と信仰に対する我々の行動を見ています。

「成人への日日」という本の中で、「そう簡単にをいはかからないんです。あの人の言うことは誠だと、あの人は立派な人だから、あの人のいうことは確かだと、いわゆる人さんに信頼してもらえるような自分にならなかったならば、私はにをいなんてかからないと思うんですよ。」とあります。

この、三代真柱様の大事なお言葉の中で、私の目を引くのは、「人さんに信頼してもらえるような自分にならなかったならば」というものです。私たち一人一人が成人そして教を実践することへの甚大な努力を続け、人に信頼してもらえるようにならなければならないということです。成人を進めるためには、これが初めの第一歩となります。自らに問うべきは、自分の子

供や家族を含め、他の人が自分のことを信頼しているか、ということです。

心の成人のためには、日常で教えを信じ、実践しなければなりません。人生での経験を通じて、親神様と教祖を信じる気持ちを強くすることは教えを信仰するのに肝心なことです。日々の暮らしでどれくらい教えを理解し、実践できるかに影響を与え、人生を陽気に過ごす助けとなるからです。

「成人の日日」という本には更に、「神一条の心で通るといふことは、等しく道の信仰をする者にとっては夢忘れてはならない。否、これこそ根本問題であると、私は申し上げたい。(中略)毎日々々(まいにち)の一つ一つの心の使い方、また身の行い方が、自分の信念から押し通すところのものであるかどうかということを、私たちはまず考えてみたい。」とあります。

毎日の暮らしの中でなんとなくしている決断というものがあると思います。ですが、今日した決断は、子供、孫、代々に影響を与えるものです。自らが選んだことや行う行動は繋がっている、ということを理解しなければなりません。次世代のための種まきをしているのです。気付いていようがいまいが、行動の全てが意味のあることなのです。私の祖父母や両親が蒔いた種は私の兄弟姉妹、子供たちそして孫たちを助けています。両親には大変感謝しています。子供がいなくても、影響を与えた人々を通して自分というものは生き続けます。あなたの行動、態度、存在意義の全てが他の誰かに受け継がれます。良い種であろうがなかろうが、我々は毎日種をまいています。日常をどのように過ごすかが現在と未来に影響を与えます。癖・性分を変えることでより前向きな心になることができます。後に続く世代のために、悪いいんねんを切り替え、良いいんねんとすることができます。これを、「世代をまたいでの御守護」と呼ぶことができます。と思います。

他の人との信仰を比較することは難しいですが、自身の信仰の度合いを比較することはできません。親神様・教祖は鏡のようなもので、自身の過去の経験を通して、どのくらい教えを実践しているか見ることができます。真実のある人となれるよう、私たちは皆努力しているのです。

信仰を深めるため、自分の強みと弱みを知ることが大事だと思います。改善すべきことはありますか？信仰に対するビジョンと何を成し遂げたいかをわかっていることも大切です。これ

は、教会、出張所、家族、一個人、すべてに当てはまることです。自身の信仰に重点を置き、それをどうした信仰にしたいかのビジョンを持ち続け、それに向かって努力して下さい。そうすることで、心の成長と、道が続くことが可能となります。

最後に、我々は今、アメリカ伝道庁の90周年、そして教祖140年祭の旬の中にあります。「信仰の喜びを分かち合おう」というテーマに集中する中、日々教えを実践・実行することは大切なことです。こうすることにより、心のほこりを払い、きれいにすることができます。人々の信頼を得て、自分の心も、親神様の思召の通りに変わっていきます。陽気ぐらしの心が日々の生活にも表れ、心の底から親神様の親心を感じるようになります。この陽気な心があるからこそ、教祖は我々のおたすけの道に力をお貸し下さり、家族を含む周りの人々を、この素晴らしい道へとお導き下さいます。親神様・教祖は、我々がおたすけの道の担い手となることを待ち望んでおられます。

おさしづからの引用をもって講話を終わりたいと思います。

育てば育つ、育てにゃ育たん。軽い理やありやせんぞ。

明治23年6月12日

ご清聴、ありがとうございました。





ソウルファイヤー 信仰カンファレンス

2023年6月23-25 カリフォルニア州パームスプリングス

陽気な週末にぜひご参加ください!

ソウルファイヤーは、お道の
教友が対面式に会い:

 信仰を、現代的かつ陽気な、スピリチュアルな行いとして強化し、自分の信仰に誇りを持たせる

 参加者の精神を高揚させ、意欲を高め、日々の課題に取り組むとき、天理教の精神でそれに立ち向かうことができるようにする

 コミュニティーの一員となり、互いに結束する

 天理教で教わる感謝や喜びを作り出す
動機付けを行う

太陽の下で楽しもう!



一緒に集まろう!



カリフォルニア州
パームスプリングス!

天理教の信者コミュニティの方とその友人のすべてにオープン



カンファレンス参加者 \$100*

ソウルファイヤー・スパークス \$20 /

ホテル代**

木曜 \$99, 金曜-土曜 \$139



少年会員はぜひソウルファイヤー・スパークスとしてご参加下さい。天理教の教えを取り入れたアート、クラフト、ゲーム、ジュニア・ワークショップ、自由時間など楽しいことが満載のプログラムです。



www.tenrikyo.com/tfc



@tenrikyo.faith.conference



@soulfiretfc

詳細とお申し込みはこちら



*全てのワークショップ、パネル、活動への参加費はこの登録費に含まれています **記載の宿泊費には税金と一晩ごとの\$10のリゾート費は含まれていません。追加で費用が請求される可能性があります。



伝道庁連絡



3 月月次祭

祭主 庁長
 扈者 大西 知 雪本 善
 賛者 小島ブライアン 田所レイ
 指図方 伊藤國繁
 神殿講話 雪本利清 (英)

教会事情

お運び：サウスカリフォルニア教会
 任命願、移転願、臨時祭典願
 おはこび：2023 年 2 月 26 日
 奉告祭：2023 年 4 月 30 日

全教一斉ひのきしんデー

ひのきしんデーを実施された地区の担当者は、実施報告書を伝道庁（担当：森下）までご提出下さい。

第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会が、2023 年 6 月 18 日（日）から 7 月 15 日（土）まで開催予定です。英語クラスに最低人数の規定はありませんが、開講約 1 ヶ月前（5 月 20 日）までに、スペイン語クラスは 5 名以上、日本語クラスは 2 名以上の申し込みがある場合に限り開講します。

伝道庁宿泊

伝道庁大祭・月次祭の第 3 日曜日の週末に伝道庁での宿泊を希望される方は、宿泊月の第 2 日曜日までに食事・宿泊の申し込みを必ず書記までご連絡ください。

アメリカれつ会新規扶養生募集

2023 年のアメリカれつ会新規扶養生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子弟子女で、大学入学が決まっている方です。扶養を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6 月 30 日（金）です。新規扶養生は 8 月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4 年目の扶養生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8 月 31 日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

伝道庁人事

2020 年 3 月 10 日より伝道庁女子青年を勤めていた井上ミッシェル氏（周東）と、2021 年 4 月 14 日より伝道庁青年を勤めていた菊地カイル氏（周東）は 4 月 11 日に任を終えてハワイに帰国しました。

「諭達第四号」頒布のお知らせ

おぢば：小冊子 1 冊 50 円、掲示用（A3 サイズ）1 枚 30 円。道友社本社、おやさと書店、東京支社で取り扱います。頒布時間は各店の営業時間に準じます。外国語版は、おやさと書店で頒布します。

伝道庁：小冊子 1 冊 50 セント。
 英語 / 日本語以外の言語についてはお問い合わせください。

各会連絡

ふしん委員会

- ・セキュリティカメラが設置されました。
- ・オフィス改築の案を構想中。

教化育成委員会

- ・今年の 7 月 16 日～22 日におぢばで行われるおやさと練成会の受講申請が正式に受理されました。受講者はコース開始までに別席を 8 席運び終えておく必要があります。英語の別席に関しては、海外部から連絡があり次第ご連絡させていただきます。
- ・TSA 春季練成会が 5 月 27～28 日の日程でアメリカ伝道庁にて開催されます。

広報委員会

- ・「家族、友人、コミュニティの人たちと信仰の喜びを分かち合おう」とのスローガンの下、90 周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しております。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致したく存じます。

川上：kamishuyo@hotmail.com

林：takhayashi@gmail.com

伝道庁ホームページ

「Resources」の内容表示変更

一れつ・ニュースレターと少年会のビデオは、「for Members & Subscribers」をクリックしてください。パスワードは「joyouslife」です。また、おつとめ役割表は、「for Ministers」をクリックしてください。パスワードは「yoboku」です。

- ・教会本部ホームページ内の「Faith」に掲載されている教祖伝や教祖逸話編等の解説文を Podcast 化する計画を進めています。

翻訳委員会

- ・教祖伝逸話篇の翻訳プロジェクトのため、4 月 29 日～30 日に翻訳小会議がオンラインで開催されます。

婦人会

- ・アメリカ婦人会創立70周年記念おぢばがえり
2023年4月17日～20日
- ・アメリカ婦人は、2024年に創立70周年を迎えます。諸先輩方がお通り下さった尊い歩みに感謝し、更なる歩みを親神様、教祖にお誓い申し上げるべく2023年、1年をかけて「アメリカ婦人会創立70周年記念おぢばがえり」を実施致します。おぢばへお帰りになられた方は、是非お名前をお知らせください。

天理教アメリカ婦人会
創立70周年記念おぢばがえり

アメリカ婦人は、
2024年に創立70周年を迎えます。
その歩みに感謝して前年の一年を通して、
特に4月におぢばに帰らせて頂きましょう！

団参日程：2023年4月17日(月)～20日(木)
<https://tenrikyo.com/womens-association> twaa@tenrikyo.com

- ・アメリカ婦人会総会
2023年5月20日(土) 午前9時30分～
対面にて開催、ライブ配信あり
よろずよ八首、主任挨拶、新入会員紹介、
スライドショー、茶話会

少年会

- ・子供おぢばがえりの詳細は5月初旬に発表します。海外少年ひのきしん隊は7月26日から29日までの期間で開催されます。
- ・少年会おつとめまなび総会:対面で8月19日(土)に開催します。対面で参加できない少年会員、ご父兄の皆様もオンラインで少年会長様のご挨拶をご拝聴ください。
- ・縦の伝道講習会:少年会本部より久保一元委員をお迎えし、8月20日(日)に開催します。
- ・少年会員の名簿のアップデートにご協力ください。新生児等、教会に新しく加わった少年会員がおられましたら、次のリンクもしくは下のQRコードから情報をご記入下さい。
<https://forms.gle/taUjX5BVeCATQKUm7>
- ・「みちのこ日めぐり」の英語版を各教会、布教所、出張所に一部ずつお送りしています。足りない場合

はお知らせください。各家庭一部まで。

- ・少年会ビデオライブラリ:教えを学べるビデオや、活動のビデオ等をアップしていますのでご視聴ください!

<https://tenrikyo.com/bga-videos>

- ・日々に教えの読み聞かせを
「Let's Learn the Teachings!」(\$3.50)
「Let's take a moment」(\$4.00)
郵送をご希望の方は団長までご連絡ください。
moto1884@icloud.com

- ・少年会ハッピーの購入をご希望の方はご連絡ください。サイズによって\$20- \$30でお分けしています。郵送可。
- ・少年会おつとめまなび総会:対面で8月19日(土)に開催します。遠方の少年会員もオンラインで参加可。おつとめの役割やおつとめ着に関する情報をご提出ください。
- ・縦の伝道講習会:少年会本部より久保一元委員をお迎えし、8月20日(日)に開催します。
- ・サンデースクールを再開しました!スタッフとしてお手伝いいただける方がおられましたらご連絡ください。(moto1884@gmail.com)

天理教少年会活動方針

「教祖のひながたを目標に教えを実践し、

子供に信仰のありがたさを伝えよう」

重点項目

- ・子供に教祖のお話をしよう
- ・教会こども会を実施しよう
- ・地域で少年会ひのきしんを実施しよう



会員名簿



ひのきしんカード



ビデオライブラリ

ニューヨークセンター

- ・文化協会日本語クラス新学期開始
4月3日～(大人160名、子供180名)
- ・青年会ミッション・キャラバン
4月14～16日ボストン、マサチューセッツ州、メイン州
- ・ひのきしんデー活動
5月7日(献血と清掃)



「信仰の喜びを分かち合おう！私の90周年記念祭」

家族、友人、コミュニティの人たちと信仰の喜びを分かち合おう！

去る4月2日、カナダ西部地区少年会では教祖御誕生祭のイベントを開催。少年会17名と育成会員29名が教祖のご誕生日をお祝いました。



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

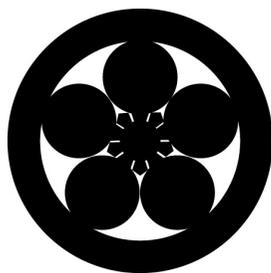
U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.



God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life